

高等学校事情

第4回 中国エリア

今号では中国エリアの岡山県と広島県の動きをレポートする。岡山県では、手厚い進路指導や学習指導などにより大学進学率が伸びている半面、全日制の高校への進学率低下という課題も抱えている。広島県では、私立の中高一貫校が進学実績を挙げる中、県立高校は学力向上対策に積極的に取り組んでおり、国公立大学への進学希望者と合格者が増加している。

岡山県

岡山県のアウトライン

地元大学進学率が過去5年間で最高

2010年に政令指定都市となった岡山市を擁する岡山県だが、文部科学省『2011年度学校基本調査速報』による18歳人口は1万8875人で、過去5年間減少が続いている。高校数は公立68校、私立23校の計91校(特別支援学校を除く)、生徒数は公立約3万8400人、私立約1万5700人(定時制を除く)で、合計約5万4100

人。過去5年間の大学等進学率は50%台前半で推移しており、2010年度には53.6%に上昇した。地元大学への進学率は2011年度は41.4%と5年間で最高だった(図表1)。

高校の現状① 改革の取り組み

高い志願倍率を維持する併設型の中高一貫校

1999年度入試から全日制普通科の通学区は21学区から6学区に変更され、岡山市と倉敷市で採られていた総合選抜制も廃止された。2002年には「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」を策定。中高一貫教育や単位制など、新しい教育システムの導入による「高等学校の魅力づくり」を基本に整備を進めてきたが、2010年4月の岡山大安寺中等教育学校(中高一貫校)、2011年4月の真庭高校(落合高校と久世高校を再編整備)の開校で一つの

区切りを迎え、生徒募集する県立全日制高校は2002年度の68校から52校となった。

これまでの施策により、進路の選択肢増加による受験生のモチベーションアップや、生徒獲得のための高校の特色づくりなどの活性化が図られたが、一方で、全日制高校への進学率低下という課題も抱えている。1998年度は94.6%で全国11位だった岡山県の全日制高校への進学率は、2010年度には90.7%となり全国42位になった。中学卒業後に進学も就職もしない若年無業者の割合も1.07%(1998年度)から1.59%(2010年度)へと上昇している(県教委調べ)。

また、再編整備によって県立高校が少なくなり、県立高校に入りにくくなったとの指摘もある。これには、1999年から2005年にかけて公私の生徒受け入れ比率を75:25から70:30に変更した影響もあると県教委はみており、今後の高校教育体制整備における課題となっている。

高校の魅力づくりの一環としてスタートした中高一貫教育は、まず2001年に蒜山高校で連携型を実施。以降、併設型の岡山操山高校(2002年)と倉敷天城高校(2007年)、さらに岡山大安寺中等教育学校が設置され、計4校となった。

現在、併設型で高校の卒業生を出し

ているのは岡山操山のみで、2011年度入試では東京大学に5人、京都大学に6人合格した。受験生の人気も高く、2011年度中学入試の志願倍率は岡山操山5.6倍、倉敷天城4.5倍、岡山大安寺5.0倍となっている。なお、現在は定時制中高一貫校の岡山市立岡山後楽館高校も、2012年度から全日制へ移行する予定だ。

キャリア教育の特徴的な取り組みとしては、倉敷南高校の学校設定教科「キャリア」がある。法律、経済、教育、人文・国際、理学、工学、医療・保健、社会福祉、環境、芸術の10分野に分かれており、外部講師の講演、調査研究と発表などの内容で構成。2年次に全生徒が履修する。

高大連携については、県教委が県内26大学のうち23大学と包括協定を結ぶなど積極的だ。岡山大学は「高校生が岡大キャンパスで大学生と共に受ける授業」として、教育学部や理学部、文学部など全9学部で公開講義を実施しており、各高校の学校設定教科の単位として認定される。また、岡山城東高校とくらしき作陽大学、美作高校と美作大学、高梁高校と吉備国際大学など、個別提携も活発に行われている。

高校の現状② 商業科の状況

進学実績を挙げる商業系学科

岡山県は、他県と比べて職業系学科の割合が高い。現在は普通科:職業系学科:総合学科=55:40:5の比率で、職業系学科の割合は鹿児島県、宮崎県に次いで全国第3位である。入試の志願倍率も、普通科が1.1~1.2倍で推移しているのに比べると、職業系学科は1.4~1.5倍と高い(県教委調

図表2 商業科の大学進学への取り組みと実績

商業高校	進学指導の主な取り組み	進学先
岡山東商業*	大学進学をめざす「アドバンスコース」の設置	岡山大学、香川大学、山口大学、立命館大学、同志社大学ほか
玉島商業*	大学への推薦入学をめざし、簿記や情報処理、ビジネス英語を含む全商英語検定の受検指導	一橋大学、岡山大学、山口大学、香川大学、大阪商業大学ほか
津山商業	推薦入試の小論文の対策を全教員が指導	高知大学、岡山県立大学、関西大学、京都産業大学、岡山商科大学ほか
倉敷商業**	ウェブ講義等の受講修了者を対象とした立命館大学特別推薦プログラム	岡山大学、香川大学、立命館大学、龍谷大学、近畿大学ほか
笠岡商業	国公立・私立大学の進路希望別の「進路コーチ」教員の設置	岡山大学、香川大学、山口大学、北九州市立大学、大阪経済大学ほか
玉野商業	大学進学をめざし、簿記、情報処理、ITパスポートなどの資格取得を支援	香川大学、山口大学、愛媛大学、早稲田大学、明治大学ほか

(注) *は2007~2011年度の5年間、**は2010年度、それ以外は2011年度の進学実績。

べ)。近年の職業系学科卒業者の進路について「他県と比べて商業学科は進学者が多い」と県教委が言うように、商業科からの大学・短大進学、専修学校進学、就職はほぼ同じ割合である。

岡山東商業高校のビジネス創造科には、国公立大学や難関私立大学への進学を目標とする「アドバンスコース」が設置されており、2010年度の大学・短大進学率は44.3%であった。岡山大学をはじめ、近県の香川大学、山口大学などの経済学部が商業科に対する推薦枠を設けている。

進路指導の特徴

卒業後も受講できる「補習科」制度

岡山県で進学実績を挙げている普通科高校は、岡山市内の6校(岡山朝日、岡山操山、岡山大安寺、岡山芳泉、岡山城東、岡山一宮)や倉敷市内の4校(倉敷青陵、倉敷天城、倉敷南、倉敷古城池)など県南部に多い。

1874年創立の伝統校である岡山朝日高校では、2人担任制を基本とした手厚い指導を実施。「東大・京大ガイ

ダンス」をはじめ、岡大、難関大、医学部など、志望校や志望分野に即した各種ガイダンスを開催。東京大学が開講している高校生向けの公開講座「金曜特別講座」をインターネット会議システムで受講する環境も整っている。2011年度入試では、東京大学10人、京都大学9人を含む128人の国立大学合格者を出した。

公立高校の進路指導の特徴に「補習科」がある。現在は岡山朝日、岡山操山、岡山芳泉、岡山一宮に設置されており、過年度卒業生を対象に大学受験指導が行われている。この制度は戦前に始まったと言われているが、1998年度には4校で合計319人いた受講生も2010年度には153人と減少している。教員が多忙になっていることもあり、存続が危ぶまれているが、旧知の教員の指導による安心感は大いようだ。

私立高校では、中高一貫校が進学実績を伸ばしている。岡山白陵高校では、70分授業や習熟度に応じた放課後の補習授業・個人指導を行っている。2011年度入試は、東京大学12人、京都大学8人を含む国公立大学合格者126人を出し、そのうち46人は医学部医学科へ進学している。

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2007	2008	2009	2010	2011
18歳人口(人)	20,465	19,741	19,322	19,042	18,875
大学等進学率(%)	51.0	51.9	52.5	53.6	52.9
地元大学進学率(%)	38.3	38.7	40.2	40.9	41.4
地元短大進学率(%)	78.1	80.6	79.5	81.8	85.8

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
 ※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業生を含まない。
 ※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業生を含む。

広島県

広島県の アウトライン

大学等進学率全国 3 位 強まる地元国公立志向

文部科学省「2011年度学校基本調査速報」による広島県の18歳人口は2万7599人。2007年度以降3万人を割り、減少が続いている。高校数は国立2校、公立90校、私立36校の計128校(特別支援学校を除く)で、生徒数は国立約1200人、公立約4万9400人、私立約2万2330人(定時制を除く)の合計約7万2900人。

大学等進学率は2008年度以降は61%台で推移。過去5年間、京都府、東京都に次ぐ全国第3位となっている。地元大学への進学率も2010年度の52.8%からは下がったものの2011年度も全国第8位の51.9%だった(図表1)。

大学進学率の傾向について県教委は、近年の大学入試センター試験(5教科6科目型)の受験者数や、県内国公立大学への県内合格者数の増加を挙げ、

「国公立志向、地元志向が増している」と分析している。

高校の現状① 改革の取り組み

小規模校の 連携推進事業が拡大

広島県では、1956年度から実施されていた総合選抜制度を1998年度に廃止。これに合わせて、広島観音高校や福山誠之館高校などの普通科高校を総合学科へと改編した。2006年度からは、「生徒の希望に沿った受験と各高校が切磋琢磨する環境の整備」という意図に基づき、全県一学区の選抜制度になった。

2003年度から2008年度にかけては、県立高校の特色づくりと適正規模化を中心とした再編整備に着手した。特色づくりでは、専門高校に農業、工業、商業の各分野の拠点校を2校ずつ指定。リーディングスクールとしての役割、職業教育を推進するセンターとしての役割を持たせた。

2005年度には新しいタイプの専門高校として、1校に商業・工業・家庭の異なる学科を置く総合技術高校を開校。複数の分野における資格取得を支援し、将来の産業界を支える人材育成に取り組んでいる。

現在は、これまでの実施内容を検証したうえで見直しを行い、再編整備計画を2013年度まで延長して進めて

いる。2010年度、世羅高校の「環境科学科」と「生産情報科」を再編し「農業経営科」に、2011年度には吉田高校の「地域開発科」と「生産流通システム科」を「アグリビジネス科」に再編するなど、農業学科の改編などに取り組んでいる。

1学年4~8学級とする「適正規模化」も進めており、2009、2010年度には、1学年1~3学級の小規模校4校の生徒募集を停止した。現在、生徒募集を行っている全日制の県立高校は、2007年度の89校から79校となっている。しかし、依然、小規模校が27校と全体の約34%を占めている。

対応策の一つとして、県教委は2010年度から新たに「小規模県立高校間の連携推進事業」をスタートさせた。これは、授業交流や部活動の合同練習、学校行事の合同実施など、学校間の連携を推進することで教育活動の充実を図るものである。教員の高校間の移動など負担もあるが、「専門性の高い教員の指導が受けられる点や部活動の活発化など、生徒からは好評を得ている」と県教委は言う。当初は、竹原市(竹原高校、忠海高校)、尾道市(瀬戸田高校、因島高校)のみの実施だったが、現在は安芸高田市、三次市など、全13市町の学校で取り組んでいる。

キャリア教育に関しては、2005~2007年度に「キャリア教育実践モデル開発事業」を実施した。モデル開発地域として東広島市や福山市など県内5地区を指定。キャリア教育の効果的な学習指導案や教材開発などに取り組み、その結果を「キャリア教育実践の手引き」にまとめた。

発達段階に応じた段階的なキャリア教育の推進を目的に、この手引きを発展させたのが、2008年に県教委が作

成したキャリア教育ノート「わたしのキャリアノート~夢のスケッチブック」である。小学校から高校までの児童・生徒用と教員用があり、2009年12月に県内の全公立高校に配付した。今後は、小・中学校からの引き継ぎを生かしたキャリアノートの効果的な活用法の確立と、体系的で一貫したキャリア教育の全体計画の作成、就職に向けたインターンシップの充実などが課題とされている。

高大連携では、県教委が大学コンソーシアム「教育ネットワーク中国」と連携して取り組んでいる。2011年度は22大学が複数の教員を高校に派遣する「大学出張講座」などが開催される。参加を希望する生徒は年々増加しており、2011年度は約1000人の参加が見込まれている。

高校の現状② 学力向上施策

合同学習合宿で 進路目標達成をめざす

県教委は2000年度から「学力向上対策事業」に取り組み、2003年度には進学指導拠点校(5校)と進学指導重点校(10校)を指定し、生徒の進路実現を後押ししてきた。2009年度からは事業を拡充し、高い目標を持ち、主体的に学習する生徒の育成をめざす「トップリーダーハイスクール」(5校)、明確な進路目標を持ち、主体的に学習する生徒の育成をめざす「チャレンジハイスクール」(15校)、基礎的な学力を確実に身に付けさせる「ステップアップハイスクール」(15校)をそれぞれ指定し、県立高校の一層の学力向上に取り組んでいる。

これらは指定期間1年の公募制で、大学合格実績や学力伸長状況、取り組

図表2 2011年度高等学校学力対策事業指定校

	指定高校名	指定基準
トップリーダーハイスクール(5校)	呉三津田、尾道北、福山誠之館、府中、安古市	過去3年間の大学入試センター試験650点数(5教科6科目:800点満点)以上得点者数の3年間平均が原則5人以上の学校を対象に大学合格実績、高校入学時から卒業時にかけての学力伸長状況、学校から提出される実施計画書の内容を考慮して指定。
チャレンジハイスクール(15校)	広島皆実、広、呉宮原、三原、尾道東、海田、廿日市、賀茂、世羅、三次、庄原格致、大内、広島井口、神辺旭、砥園北	2010年度高等学校共通学力テストの平均通過率(全科目平均)が60%以上、かつ2010年度大学(四年制大学・短期大学)進学者の割合が原則50%以上の学校を対象に、高校入学時から卒業時にかけての学力伸長状況、大学合格実績、学校から提出される実施計画書の内容を考慮して指定。
ステップアップハイスクール(15校)※	吉田、向原、御調、上下、東城、賀茂北、日影館、安芸、河内、熊野、安西、高陽東、呉昭和、西城紫水、大崎海星、戸手、因島	2010年度高等学校共通学力テストの平均通過率(全科目平均)が40%程度以上の学校を対象に、高等学校共通学力テストにおける通過率の伸び、学校から提出される実施計画書の内容を考慮して指定。

※「小規模県立高校間の連携推進事業」実施2グループ(1グループ2校)を含むため、指定高校名は17校となる。

み実施計画書などを審査し、指定する(図表2)。

2006年度からは、進学実績の顕著なトップリーダーハイスクール5校に、スーパーサイエンスハイスクールに指定されている広島国泰寺高校と中高一貫校の広島高校を加えた7校で、2年次の夏休みに合同学習合宿を実施している。高い実践的指導力を持った教員による授業や、東京大学・京都大学などに進学した卒業生の講演会を開催。大学・企業研究室訪問、学生がガイドを務めるキャンパスツアーや東京大学地震研究所での研修も実施して、学習意欲の向上につなげている。

学習指導の特徴

寄宿舎で夜間に 大学院生が指導

広島県の進学実績は、広島学院高校や修道高校など、私立の中高一貫校が長年リードしてきたところに特徴がある。広島学院高校は、月曜日の7時限授業と土曜日の4時限授業(いずれも隔週)を実施、3年の夏休みには自習のための自主登校を奨励し、学習時間の確保に努めている。2011年度は、東京大学21人、京都大学14人の合

格者が輩出した。

県立の中高一貫校では、2004年度に創立された広島高校が健闘している。併設の寄宿舎で、夜間の学習時間に広島大学の大学院生が入寮生にマンツーマンで指導を行う「スクールサポーター」制度を設けている。「難関大学等合格者90人以上(うち広島大学合格者40人以上)」を中期達成目標に掲げ、2011年度入試では、東京大学3人、京都大学5人、広島大学25人など、国立大学合格者は113人であった。

尾道北高校や福山誠之館高校といった総合学科を持つ高校が高い進学実績を挙げているのも広島県の特徴だ。

福山誠之館高校では、人文科学、社会科学、自然科学、生命科学、国際文化、生活・芸術、健康スポーツの全7系列を設定し、総合学科ならではの幅広い学習に対応している。総合学習として行われる「誠之ナビ(2年次)」「誠之ゼミ(3年次)」では、生徒が主体的に課題設定・計画立案し、解決する学習方法により、計画性や実践力、問題解決能力を育成する。2011年度入試では、卒業生数309人のうち、京都大学5人、大阪大学5人を含む202人の国公立大学合格が輩出している。

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2007	2008	2009	2010	2011
18歳人口(人)	29,896	28,627	27,941	27,892	27,599
大学等進学率(%)	59.3	61.6	61.6	61.5	61.1
地元大学進学率(%)	49.6	50.0	51.2	52.8	51.9
地元短大進学率(%)	68.3	69.5	69.8	71.7	68.2

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
※大学等進学率は、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業生を含まない。
※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業生を含む。